

東由利村報

No. 106 1966・4・25

発行
東由利村役場
編集
畑山伝二郎
印刷
KK本間印刷所

永慶保育園入園式

4月6日 新入園児86名



は最も重要な投資である。
その教育に直接たづさわる教育者各位を、私は従来極力尊重して来た。
この村はこれまで多くの人材を生んでいる。これ等の人々は決して恵まれた環境に育った人々ではない。成せば成る。これらの人々の経歴がよくそれを物語っている。切に各位のご協力に期待します。
魅力ある村づくり。村づくりに希望を持つような青少年を育成するようお願いする。
我が村がよくならなければ日本がよくなれない。日本がよくならなければ世界もよくなれない。

▷議長あいさつ◁

心の円満な子どもを育てていただきたい。そして先生方もこの村で楽しい張り合いのある生活をして下さるようお願いする。

▷渡辺社教主事あいさつ◁

近年この地域の教育の実績が目立って向上して来ていると、県では高く評価している。学校教育と社会教育は一体とならなければならないが、各々その本質があるので、お互にその立場を尊重しながら成果をあげるよう協力しなければならぬ。

▷教職員代表謝辞◁

村行政を中心とした「教育を語る会」を開いて下さったことを深く感謝する。
我々は職責を果すために全力を尽す決意である。

▷懇談◁

- 遠距離通学生徒の奨学補助
- 出稼家庭の指導
- 教員住宅の不足解消計画
- 給食に生牛乳を用いること
- 定時制高校の独立高校昇格

許正

去る4月19日各戸にさし上げた「お願いとお知らせ」の中に次のようなまちがいがありますので訂正します。
4の(2)かっこ内1月末は10月末。

第4回村議会臨会

4月19日臨時議会が招集され、次の3議案を原案どおり可決し、陳情書1件を採択・1件を継続審議にした。

■村税条例の一部を改正する条例

今国会で地方税法・所得税法等の改正に伴う措置で、基礎控除の引上げなどにより、税負担を軽くすると共に規定の整備をはかるものである。

■国民健康保険税の一部を改正する条例

字句の改正が主で内容は変わらない

■官行造林契約解除について
宿字寺山・根小屋・三ツ森下長根谷地31.45haで、大正11年国との間に官行造林契約をしている箇所であるが、昭和39年までに大部分が皆伐されており、桑園草地計画が39年中に県の認可をうけているので解約するものである。

■陳情書

1、音楽室の増築について

下郷中学校。採択

2、国道より東北化工に至る村道200米を3.5米に拡幅すること。佐々木源次郎

(土木委員会付託継続審議)

■議員村内巡察

- 1、視察日時、5月6日前8時
- 2、視察行程

イ 沼・土場沢方面
沼林道・地上り工事・沼分校
村有林・桑園・村道土場沢線
スキー場宿舎・大琴橋

ロ 大台黒沢方面

村道根小屋線 長根谷地牧道
村有三ツ森下植林・桑園及び
草地予定地 大台分校・若林
放牧場・黒沢林道・トンネル

定期家畜市場 4月20日

	上場頭数	最高	最低	平均
雄	15,941	100	55,200	71.773
雌	13,860	000	63,600	73.777
計	28			72.703

総売上額 2,035,700円

村長招待

教職員懇談会

恒例の村行政を中心とした教職員懇談会は4月18日役場で行われた。

小中学校・保育園・定時制高校各職員 教育委員・由利分室社会教育主事 本年度退職校長など参会者130余名、村長・議長・来賓のあいさつ教職員代表の謝辞について懇談に移り、切実卒直な発言あり、懇親会には各学校単位の団体個人の名人芸が披露され和気満堂にあふる盛会であった。

▷村長あいさつ◁

人間の希望するところは、自由なゆたかで幸福な生活であらう。

現代は人間の能力開発を最も重要な課題として取上げている。その開発の手段は教育をにおいて他になく、教育こそ

部落長会議

納期内完納3組合

年度末部落長会議は3月30日開催された。

始めに税金完納組合の表彰が行われたが、今年度は納税成績の向上が著しく、納期内完納3組合(倉・日照坂・蔵)指定納期完納14、年度末完納47で未完納は2組合だけとなった。

▷村長あいさつ◁

- 村づくりの目標
- 納税成績の向上
- 部落長の職責の重大さ
- 村の開発の現状
- 村の前途に自信を持って

▷議会議長あいさつ◁

- 村をゆたかにしよう
- 農協合併の急務

▷土木関係報告◁

本年度施行予定の重なもの
 ○黒沢林道500m、○軽井沢4号橋(袖山小学校の上)○善徳3号橋改良○黒沢トンネル巻直し○石田坂橋改良○鳥宮橋60m、大琴橋取付道路200m、外道路新設修理15カ所

○道路修理9カ所○橋10カ所

▷協議・依頼事項◁

- 1 春の全県無火災運動
- 2 消防団の活動に対する一般村民の協力体制を強化する
- 3 交通事故防止
- 4 衛生害虫の駆除
- 5 砂利検収と道路側溝の手入れに協力を
- 6 部落交付会金
- 7 納税報償金
- 8 納税組合補助金(今年度は大巾にふえた)
7、8は各戸に配布
- 9 酒類の密造防止
- イ40年度の検挙67
- ロ1部落で1度に10数名の検挙が出た例もあり、取しまりのたびに検挙されている

▷質疑応答◁

下郷中学校給食の流し水、し尿処理を適切にすること、村民税の申告賦課基準其他活発な要望質疑があった。

具・施設・経費などこまかな計画を立てて見たが、他部落・村などの関係方面との調整

しなければならぬことも残されており、なおよく研究することにした。



写真上
4月21日県会議員一行の道路視察
写真下
4月23日、村内道路橋梁視察中の県道路課長(沖田橋)



納税表彰

春の全国交通安全旬間

5月11日~20日

中学校中心に大張切り

交通事故はひとつではない。毎日のように報導される交通事故が、いつ自分に番が当たって来るか知れたものではない。ことによらば車などにはねられた日には、全く浮かばれないというものだ幸、おとし去年と引つづいて中学校が中心となって本気に交通指導をしてくれるようになったので、効果がはっきりあらわれるようになり、下中などは松ヶ崎について本荘由利郡で第2番目に効果があがっているといわれている。

しかし小学校はまだまだががんばってもらわなければならない。それよりも大人の無関

心にはあきれる外はない。=車は左・人は右=の交通規則第1課さえも守らない者がたくさんいる。自分の子どもが道路で毎日遊んでいても何んの注意もしないだろう、部落によっては道路一杯に子どもが遊んでいるところがある。

事故があつてからではもうおそい。何んといつてもひかれた者が一番馬鹿を見る。道路の舗装がのびて、スピードが増して車の数が多くなる。今こそ身にせまる危険を防ぐために一人々々が本気になって立上らなければならないが特に旬間中の全村運動に理解と協力をおねがひする。

生活改善協議会

田植時の共同炊事を計画

4月20日新田児童館で生活改善協議会を開いた。昨年中蔵地区の実態を調査していた、生活改善普及員の高橋政子さんと、本荘普及所の東由利担当中村普及員を中心に話し合いを進めた。

参加者は新田の農家の主婦ほとんど全員で

「明るくゆたかな暮らしをするにはどうしたらよいか。主婦の労働を軽くするにはどこをどう工夫すればよいか。つかれと栄養との調和」などについて話しているうちに、「せめて田植時だけでも共同炊事をやろう」ということになりその実際計画について話しをした。

午後は部落長、増産班長・主人側の代表なども加わって実施責任者・調理担当者・用

今年の稲作予想と対策

住吉地区ゼミナール

4月11日住吉地区ゼミナールは、41年度開講式を兼ね、今年度稲作の第1回学習会を行なった。

講師は遠藤徳太郎氏と農協指導員佐藤十内氏で、参加者は学級生の外一般住民を含む30余各。

遠藤徳太郎氏の話

近代稲作の三悪

○堆肥不足○浅堀り○田廻りが少ない。

○今年の気象その他の条件から見て稲作を予想すると決して楽観を許されない。

特に地温の低いところに対処する苗代づくり。本田の施肥

の量と配合についての細かな注意があった。

ついで農協指導員を中心に本年度ゼミナールの計画を話し合い、○生育調査の実施○労働日誌の記帳(昨年より継続)○稲作のテキストによる本格的学習○学級生試験田の作況視察などをきめた。

この学習団はあとつぎ青年だけで組織され、内部リーダーによってチームワークもよくとれている。

今年からは試作用のたんぼはすっかり任してもらい、自由に試験出来るようにし、稲作のポイントになる時期8回を選んで、巡回見学をしながら実地研修をする。

族全部の理解と協力、農協役場の指導援助の3つが調和されなければならぬ。

40年度所得、170万5千円

〃 支出 53万5千円

農協指導部員の話

この酪農家の特色は、記帳が非常にこまかく確実に実行されていることだ。記帳簿は農協で無償配布する。

39年には草地33町をつくり、草地育生用のタンカルは7割の補助をしている。導入資金は15万円まで貸しつける。更生導入牛には1頭に5千円の補助をする。牛乳の出荷は森永と契約しており、運賃手数料は森永負担である。

財産区では年々50万円を補助して牧道の修理にあてている

根城酪農組合

西滝沢の奉行免 新屋敷 両地区共成牛約50頭づつ、全部ホルスタイン。

- 1、奉行免では酪農家15戸のうち最高13頭を飼育している家があった。
- 2、部落内に2トン積のトラック5台あり、話しあいによりよく利用している。草地まで片道6キロ。
- 3、テラーの先に草刈機をつけ半日で2日分の草を運ぶ。

10年先のゆめ

ダム周辺に桜植付

10年先の村民のいこいの場八塩ダムに花の名所をつくらうと、溜池週辺10haの地に、桜1千本・つつじ500本を植えることになり、4月18日～

4、よい牛をそろえることに努力しているので、20万円から30万円クラスの牛が多い。仔牛でも相当な収益になる。

5、粗収入の割合は、米30%酪農70%位になった。

広域行政の手始め

衛生センター操業始まる

昭和39年度から広域行政の手始めとして、本荘市・大内村・岩城町・東由利村・由利町・矢島町・西目村の協力により、総工費9997万円で西目村海士剝に建築を急いでいた本荘由利衛生センター(し尿処理場)が完成し、4月1日から操業を始めている。

2カ年にわたる継続事業として本村でも248万9千円を負担しました。

本村はまだ特別清掃区域指定の許可をうけていないため、指定業者はきめていませんが、本荘衛生社から申し入れがあって一応許可しています。衛生センターの面積は1万9千8百平方メートルで、この中にガスホルダー・消化槽 機械室・管理宿舎・事務所などがあり、し尿は完全に消化・分解・消毒されて安全無害な処理水となって日本海に放流される。

21日の4日間にわたり、役場職員・森林組合など団体職員村議会議員などにより植付をおわった。



お話し中の遠藤徳太郎氏

酪農ゼミナール 村外研修

3月31日酪農ゼミナールと酪農連盟との合同村外研修を行なった。参加者は森指導員寅田畜産係以下男女61名。

小友水田酪農

小友農協で小松敏雄氏から水田酪農経営の実際を聞いた(小松敏雄氏は小友金山の人水田酪農の成功者で、デーリージャパン「酪農日本」の創刊10周年記念論文で全国第1位当選者)

○私の酪農は昭和32年、ホルスタイン搾乳牛1頭育成牛1頭から始めた。初年度の販売乳量は2千kgであった。

35年には搾乳牛2頭、37年

に3頭、39年4頭、40年には5頭と育成牛2頭、販売乳量は2万7千kgである。

45年には搾乳牛10頭育成牛2頭にする。

私の経営は今まである施設を活用して設備投資を極力切りつめる方針である。牛舎は小屋を仕切って使っており、10頭になってもこのままで行く、草地1町5反、田2町5反を耕作しているがまだ耕耘機も買っていない。

問題は労力不足のため乾草の収穫が困難なことである。昨年の収量は600貫位しかなかった。今年は田3反歩を草地転換に使う。

酪農が成功するか否かは、どこまでもやりぬくという決心があるかないかが第一、家

国民年金だより

改正案が成立するとす

国民年金はこんなに改善されます

4月8日国民年金協力員会議が役場で開かれ5カ年勤続協力員の表彰を行った後、改正国民年金制度などについて研修を行った。

改正国民年金制度の要点
拠出年金(かけ金あり)
年金額が2倍以上になる
42年1月から

○老令年金
25年保険料を納めた場合
年6万円、月5千円

△現法、年2万4千円
40年保険料を納めた場合
年9万6千円、月8千円

△現法、年4万2千円

○障害年金
最低、年6万円、月5千円
重度の場合、1万2千円増

○母子準母子年金
最低、6万円、月5千円
△現法、2万4千円

○遺児年金
最低、3万円
△現法、1万2千円

保険料も上げられる
42年1月から

35才以上、250円に
35才未満、200円に
福祉年金

○老令福祉年金
70才から受ける年金
年1万8千円(月1500円)

△現法、(月1300円)
○障害福祉年金
年2万6千4百円(月2千2百円)

△現法、年2万4千円
○母子、準母子福祉年金
年2万4百円、

△現法、1万8千円
4月から新しい手帳
古い手帳にまだ3月分までをおさめないでいる方は、4月中におさめないと、めんどろな手つづきをして、郵便局から現金でおさめなければならなくなりますからぜひ今月中におさめて下さい。

保険料の免除について
保険料をかけた場合と免除を受けた場合とでは、受取る年金は次のように大きくちがいます。

年金額のきめ方
拠出の場合、2400円×年数
免除 //、800円×//
今20才加入40年とすると
拠出、2400円×40=96000
免除、800円×40=32000
これが毎年のことです。60をすぎてからの6万4千円は大へんな金額です。若いうちにがんばっておきましょう。

して献血の日に備え、進んで血液検査を受ける婦人会員

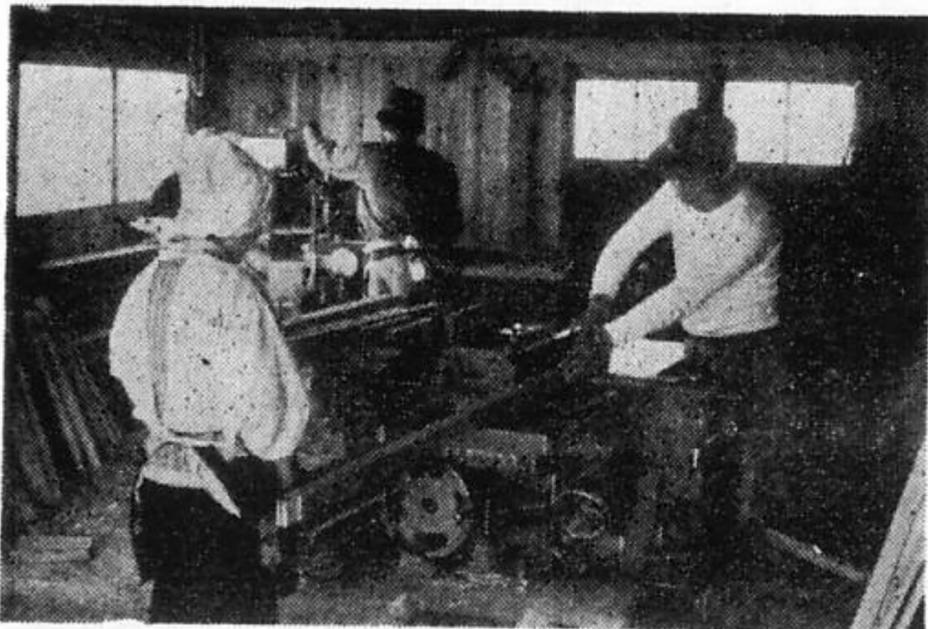
建具の共同製作

農業も構造改善をして合理的な経営をしなければやっに行けなくなったように。工業も昔ながらの個人作業ではとてもやっに行けなくなった。商工会などでもいろいろ研究しているようだがさて実行となると仲々踏み切れならしい。このたび老方の小野大吉

さんと、五海保の遠藤忠さんとが建具の共同製作を始めることにした。

行く行くは同業者を大きく合同したいつものようだがよい品を安く早くつくるためには設備投資が容易でない。

今のところ大型機械3台・小型3台を備えつけて操業を始めているが、企業合同によって、ここで生れた工場にまで育ててもらいたいものである。



農業共済組合の役員きまる

村農業共済組合では任期满了による役員選挙を去る20日の総代会に於て選挙の結果、下記のとおり新役員がきまった。

- | | |
|------|------------|
| 記 | |
| 組合長 | 理事 志村金之助 再 |
| 副組合長 | 高橋俊一 新 |
| 理事 | 佐々木直三郎 再 |
| " | 高橋重助 " |
| " | 小笠原喜一郎 新 |
| " | 荘野徳一郎 " |
| " | 遠藤治郎助 " |
| 監事 | 畑山清一 再 |
| " | 渡辺哲治郎 " |
| " | 佐藤精二郎 新 |

創業50周年記念簡易保険

新加入運動

○期間、昭和41年5月～6月
○趣旨、簡易保険は、本年創業50周年の記念すべき年をむかえ、その契約高は4兆円をこえ、国民の経済生活の安定

と福祉増進の大きな力となっています。

これからも益々国民に親しまれ信頼される簡易保険としてその使命を果して行くためには、なおいっそう新契約高をふやすことが大切であります。とくに保障の必要度の高い青壮年層の加入は、まだ十分とはいえないので、クローバー保険(特別養老保険)、家族保険の新加入運動を実施するものであります。

○運動の重点、この運動の間は特に次のことを重点として実施します。

(1)青壮年層への普及
簡易保険の青壮年層への普及はまだ十分でないので、これ等の層に適した3倍保証のクローバー保険への加入をすすめる。

種村所移転

佐藤寅次さんは、老方下通り元高橋光雄さん宅へ移転することになりましたので、種付所もそちらへかわりました

婦人会の血液検査

去る3月23日、東由利婦人会の総会の当日、由利組合病

院副院長から献血に関する講話を聞き、健康な血液の準備がいかに重要であることを認識

